

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 8 月 20 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/20 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.1 m ³ /h	39.0	106.6 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	53.8	4.91 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.1 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.4 m ³ /h	52.6	0.22 kPa g	A系： 0.25 vol%
		給水系：約 2.6 m ³ /h			B系： 0.24 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/20 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.5
2号機	循環冷却システム	運転中	31.2
3号機	循環冷却システム	運転中	29.7
4号機	循環冷却システム	運転中	38

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドランジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	8/15 17:08 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	8/12 10:25 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	→ 仮設タンク	8/20 10:00 ~ 15:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (8/20 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/8/17 10:16 頃 パトロールを実施していた協力企業作業員が淡水化装置(逆浸透膜式)3において、水が漏れていることを発見。10:17、同装置を手動で停止し、10:22、漏えいが停止したことを確認。また、漏えい箇所は同装置のスキッド3内のブースターポンプ吸込側の継手部であることを確認。漏えい量は約0.2m³と推定しており、漏れた水は淡水化装置処理前の水で、表面線量率はガンマ線が0.1mSv/h、ベータ線が3mSv/h。なお、漏れた水は堰内に留まっており、系外への流出はない。漏えい水の核種分析を行った結果、ヨウ素131が検出限界未満、セシウム134が $4.2 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $7.2 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、全ベータが $7.1 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 。また、サンプリング箇所では表面線量率を再度測定した結果、ガンマ線が0.028mSv/h、ベータ線が5mSv/hであった。
- 8/18 その後、漏えい箇所の清掃および類似箇所の点検を実施し異常のないことが確認されたことから、12:20に淡水化装置(逆浸透膜式)3のスキッド4、13:00に同装置1(A/B)をそれぞれ起動。今後、同装置については、水バランスを考慮し断続運転を実施。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上